

◎日本国と大韓民国との間の両国に隣接する
大陸棚（大陸棚）の南部の共同開発に関する協定

（略称）韓国との大陸棚南部共同開発協定

昭和四十九年 一月三十日 ソウルで署名
昭和五十二年 六月八日 国会承認
昭和五十三年 六月二十日 批准の閣議決定
昭和五十三年 六月二十二日 東京で批准書交換
昭和五十三年 六月二十二日 公布及び告示
（条約第八号及び外務省告示第一八四号・
一八六号）
昭和五十三年 六月二十二日 効力発生

目次

ページ

前文	六二三
第一条 用語の定義	六二三
第二条 共同開発区域の設定	六二四
第三条 小区域の決定及び修正	六二六
第四条 開発権者の認可及び通知	六二六

第五 条	事業契約の締結及び効力発生	六二六
第六 条	操業管理者の指定及び権限	六二七
第七 条	共同開発区域における施設の取得、建設等	六二八
第八 条	国内法令上の義務の履行	六二八
第九 条	天然資源の分配並びに費用の分担	六二八
第十 条	開発権者の探査権及び採掘権	六二九
第十一 条	坑井の掘さく義務	六三〇
第十二 条	操業の着手時期及び継続義務	六三一
第十三 条	小区域の放棄	六三一
第十四 条	開発権者の権利の取消し	六三二
第十五 条	残存開発権者の権利及び義務	六三二
第十六 条	採取された天然資源に対する法令の適用	六三四
第十七 条	開発権者に対する課税等	六三四
第十八 条	装置等の搬入及び搬出並びに使用についての報告	六三五
第十九 条	国内法令の適用	六三五
第二十 条	海洋における衝突、海洋汚染の防止等	六三六
第二十一 条	損害賠償	六三六
第二十二 条	無線局に対する周波数の割当て	六三七

第二十三条	単一地質構造の採掘	六三八
第二十四条	日韓共同委員会の設置、運営等	六三九
第二十五条	日韓共同委員会の任務	六四〇
第二十六条	紛争の解決	六四一
第二十七条	共同開発区域及びその上部水域における航行、漁業等への影響	六四二
第二十八条	協定の規定と共同開発区域に対する主権的権利及び大陸棚境界画定との関係	六四二
第二十九条	協議	六四三
第三十条	協定実施のための国内的措置	六四三
第三十一条	批准、効力発生、有効期間及び終了	六四三
末文		六四四
付表		六四六
○合意された議事録		
1 「法令」の定義		六五四
2 第二条1及び付表に定める座標の基礎		六五四
3 単独危険負担操業の実施		六五四
4 漁業上の利益との調整のための行政指導		六五五
5 事業契約に関する日付の通知		六五五
6 操業管理者の衡平な指定		六五五

7	第九条2にいう費用に含まれる費用	六五五
8	第九条2の規定の適用除外	六五五
9	採掘権の存続期間延長の申請	六五五
10	採掘権を許与する日	六五五
11	新たな開発権者による採掘権の存続期間延長の申請	六五五
12	単独危険負担操業の場合における操業者手・継続義務	六五六
13	第十二条の規定の適用除外	六五六
14	第十五条1に規定する締約国の承認	六五六
15	操業管理者でない残存開発権者の地位	六五六
16	第十五条2に規定する所得に対する租税	六五七
17	第十七条2の規定に基づいて課される租税等	六五七
18	第二十一条3に規定する損害及び坑水	六五七
19	第十五条1の規定に基づき探査又は採掘を行う場合の第二十一条3(1)(a)の適用	六五七
20	第二十三条2(1)に関する独立採掘の禁止	六五八
21	第二十三条2(2)に規定する合意への参加	六五八
	○掘さく義務に関する交換公文	六五九
	韓国側書簡	六五九
1	開発権者の坑井掘さく義務	六五九

2	取極の適用時期	六五九
---	---------	-----

	日本側書簡	六六一
--	-------	-----

	○海洋における衝突の防止に関する交換公文	六六二
--	----------------------	-----

	韓国側書簡	六六二
--	-------	-----

1	探查活動の海域、期間及び固定施設の位置等の通報並びに燈火、信号、標示等の設置	六六二
---	--	-----

2	取極の適用時期	六六四
---	---------	-----

3	終了	六六四
---	----	-----

4	将来の取極決定のための会合	六六四
---	---------------	-----

	日本側書簡	六六五
--	-------	-----

	○海洋の汚染の防止及び除去に関する交換公文	六六六
--	-----------------------	-----

	日本側書簡	六六六
--	-------	-----

I		
---	--	--

1	噴出防止装置等	六六六
---	---------	-----

2	油の排出	六六八
---	------	-----

3	廃棄物の排出	六六九
---	--------	-----

4	汚染の防止及び除去	六七〇
---	-----------	-----

5	坑井の廃止	六七〇
---	-------	-----

II		
----	--	--

1	情報の提供	六七〇
---	-------	-----

2	I 4 の規定に従ってとられた措置の通報	六七一
---	----------------------	-----

III

1	噴出防止装置の要件に関する規定適用上の例外	六七一
---	-----------------------	-----

2	深さ千五百メートルを超える坑井の取扱い	六七一
---	---------------------	-----

IV	I 4 に定める汚染の防止若しくは除去が不十分な場合の措置	六七二
----	-------------------------------	-----

V	協力	六七二
---	----	-----

VI	効力発生、終了及び将来の取極決定のための会合	六七二
----	------------------------	-----

付表		六七三
----	--	-----

韓国側書簡		六七四
-------	--	-----

日本国と大韓民国との間の両国に隣接する大陸棚の南部の共同開発に関する協定

日本国と大韓民国は、
両国の間に存在する友好関係を助長することを希望し、
両国に隣接する大陸棚の南部において共同して石油資源を探索し及び採掘することが両国に共通の利益であることを考慮し、
その石油資源の開発の問題について最終的な実際の解決に到達することを決意して、
次のとおり協定した。

第一条

用語の定義

- この協定の適用上、
- (1) 「天然資源」とは、石油資源（天然ガス資源を含む）及びこれに付随して産出されるその他の地下の鉱物をいう。
 - (2) 「開発権者」とは、いずれか一方の締約国により、当該一方の締約国の法令に基づき、共同開発区域において天然資源を探索し又は採掘することを認可された者をいう。
 - (3) 「両締約国の開発権者」とは、共同開発区域内の同一の小区域についてそれぞれ認可された一方の締約国の開発権者及び他方の締約国の開発権者をいう。
 - (4) 「事業契約」とは、共同開発区域において天然資源を探索し及び採掘するために両締約国の開発権者の間で締結される契約をいう。
 - (5) 「操業管理者」とは、共同開発区域内の一の小区域につ

AGREEMENT BETWEEN JAPAN AND THE REPUBLIC OF
KOREA CONCERNING JOINT DEVELOPMENT OF THE
SOUTHERN PART OF THE CONTINENTAL SHELF
ADJACENT TO THE TWO COUNTRIES

Japan and the Republic of Korea,
Desiring to promote the friendly relations
existing between the two countries,
Considering their mutual interest in carrying out jointly exploration and exploitation of petroleum resources in the southern part of the continental shelf adjacent to the two countries,
Resolving to reach a final practical solution to the question of the development of such resources,
Have agreed as follows:

Article I

For the purposes of this Agreement:

- (1) The term "natural resources" means petroleum (including natural gas) resources and other underground minerals which are produced in association with such resources;
- (2) The term "concessionaire" means a person authorized by either Party under the laws and regulations of that Party to explore and/or exploit natural resources in the Joint Development Zone;
- (3) The term "concessionaires of both Parties" means a concessionaire of one Party and a concessionaire of the other Party respectively authorized with respect to the same subzone of the Joint Development Zone;
- (4) The term "operating agreement" means a contract concluded between concessionaires of both Parties for the purpose of exploring and exploiting natural resources in the Joint Development Zone;

き、事業契約の下で、操業管理者として指定され及び行動する開発権者をいう。

第二条

1 共同開発区域は、次の座標の各点を順次に結ぶ直線によつて囲まれる大陸棚^{だな}の区域とする。

座標一	北緯三十二度五十七・〇分東経百二十七度四十一・一分
座標二	北緯三十二度五十三・四分東経百二十七度三十六・三分
座標三	北緯三十二度四十六・二分東経百二十七度二十七・八分
座標四	北緯三十二度三十三・六分東経百二十七度十三・一分
座標五	北緯三十二度十・五分東経百二十六度五十五・五分
座標六	北緯三十度四十六・二分東経百二十五度五十五・五分
座標七	北緯三十度三十三・三分東経百二十六度〇・八分
座標八	北緯三十度十八・二分東経百二十六度五・五分
座標九	北緯二十八度三十六・〇分東経百二十七度三十八・〇分
座標十	北緯二十九度十九・〇分東経百十八度〇・

(5) The term "operator" means a concessionaire designated and acting as such under the operating agreement with respect to a subzone of the Joint Development Zone.

Article II

1. The Joint Development Zone shall be the area of the continental shelf bounded by straight lines connecting the following points in the sequence given below:

Point 1	32°57.0' N	127°41.1' E
Point 2	32°53.4' N	127°36.3' E
Point 3	32°46.2' N	127°27.8' E
Point 4	32°33.6' N	127°13.1' E
Point 5	32°10.5' N	126°51.5' E
Point 6	30°46.2' N	125°55.5' E
Point 7	30°33.3' N	126°00.8' E
Point 8	30°18.2' N	126°05.5' E
Point 9	28°36.0' N	127°38.0' E
Point 10	29°19.0' N	128°00.0' E
Point 11	29°43.0' N	128°38.0' E
Point 12	30°19.0' N	129°09.0' E
Point 13	30°54.0' N	129°04.0' E
Point 14	31°13.0' N	128°50.0' E
Point 15	31°47.0' N	128°50.0' E
Point 16	31°47.0' N	128°14.0' E
Point 17	32°12.0' N	127°50.0' E
Point 18	32°27.0' N	127°56.0' E
Point 19	32°27.0' N	128°18.0' E
Point 20	32°57.0' N	128°18.0' E
Point 1	32°57.0' N	127°41.1' E

- 座標十一 〇分 北緯二十九度四十三・〇分東經百二十八度三十八・〇分
- 座標十二 〇分 北緯三十度十九・〇分東經百二十九度九・〇分
- 座標十三 〇分 北緯三十度五十四・〇分東經百二十九度四・〇分
- 座標十四 〇分 北緯三十一度十三・〇分東經百二十八度五十・〇分
- 座標十五 〇分 北緯三十一度四十七・〇分東經百二十八度五十・〇分
- 座標十六 〇分 北緯三十一度四十七・〇分東經百二十八度十四・〇分
- 座標十七 〇分 北緯三十二度十二・〇分東經百二十七度五十・〇分
- 座標十八 〇分 北緯三十二度二十七・〇分東經百二十七度五十六・〇分
- 座標十九 〇分 北緯三十二度二十七・〇分東經百二十八度十八・〇分
- 座標二十 〇分 北緯三十二度五十七・〇分東經百二十八度十八・〇分
- 座標一 〇分 北緯三十二度五十七・〇分東經百二十七度四十一・一分
- 2 共同開発区域を囲む直線をこの協定に附屬する地図に表示する。

小区域の
決定及び
修正

第三条

- 1 共同開発区域は、小区域に分割することができる。各小区域においては、両締約国の開発権者が探査及び採掘を行うものとする。
- 2 各小区域に番号を付し、この協定の付表において地理上の座標によつてその範囲を定める。付表は、両締約国の間の合意により、この協定を改正することなく、修正することができる。

第四条

- 1 各締約国は、この協定の効力発生の日の後三箇月以内に、各小区域について一又は二以上の開発権者を認可する。締約国が一の小区域について二以上の開発権者を認可した場合に於ては、それらの開発権者は、分割することができない利益を有するものとし、この協定の適用上、一の開発権者によつて代表される。開発権者又は小区域の変更に際しては、関係締約国は、できる限り速やかに、一又は二以上の新たな開発権者を認可する。
- 2 各締約国は、他方の締約国に対し、自国の開発権者を遅滞なく通知する。

第五条

- 1 両締約国の開発権者は、共同開発区域において天然資源を

開発権者
の認可及
び通知

事業契約

Article III

1. The Joint Development Zone may be divided into subzones, each of which shall be explored and exploited by concessionaires of both Parties.
2. Each subzone shall be numbered and defined by reference to geographical coordinates in the Appendix to this Agreement. The Appendix may be amended by mutual consent of the Parties without modification of this Agreement.

Article IV

1. Each Party shall authorize one or more concessionaires with respect to each subzone within three months after the date of entry into force of this Agreement. When one party authorizes more than one concessionaire with respect to one subzone, all such concessionaires shall have an undivided interest and shall be represented, for the purposes of this Agreement, by one concessionaire. In case of any change in concessionaire or in subzone, the Party concerned shall authorize one or more new concessionaires as soon as possible.
2. Each Party shall notify the other Party of its concessionaire or concessionaires without delay.

Article V

1. Concessionaires of both Parties shall enter into an operating agreement to carry

共同して探査し及び探掘するために、事業契約を締結する。

事業契約においては、特に、次の事項について定める。

(a) 第九条の規定に基づく天然資源の分配及び費用の分担に関する詳細

(b) 操業管理者の指定

(c) 単独危険負担操業の取扱ひ

(d) 漁業上の利益との調整

(e) 紛争の解決

2 事業契約及びその修正は、両締約国の承認を得たときに効力を生ずる。両締約国の承認は、事業契約又はその修正が承認を得るため両締約国に提出された後二箇月以内にいずれか一方の締約国が事業契約又はその修正を明示的に否認しない限り、与えられたものとされる。

3 両締約国は、前条1の規定により両締約国の開発権者が認可された後六箇月以内に事業契約が効力を生ずることを確保するよう努力する。

第六条

1 操業管理者は、両締約国の開発権者の間の合意によつて指定される。両締約国の開発権者がその認可の後三箇月以内に操業管理者の指定について合意に達することができなかった場合には、両締約国は、操業管理者の指定について協議する。その協議が開始された後二箇月以内に操業管理者が指定されなかつた場合には、両締約国の開発権者は、くじ引によつて操業管理者を決定する。

out jointly exploration and exploitation of natural resources in the Joint Development Zone. Such operating agreement shall provide, inter alia, for the following:

(a) details relating to the sharing of natural resources and expenses in accordance with Article IX;

(b) designation of operator;

(c) treatment of sole risk operations;

(d) adjustment of fisheries interests;

(e) settlement of disputes.

2. The operating agreement and modifications thereof shall enter into force upon approval by the Parties. Approval of the Parties shall be deemed to have been given unless either Party explicitly disapproves the operating agreement or modifications thereof within two months after such operating agreement or modifications thereof have been submitted to the Parties for approval.

3. The Parties shall endeavour to ensure that the operating agreement enter into force within six months after concessionaires of both Parties have been authorized under paragraph 1 of Article IV.

Article VI

1. The operator shall be designated by agreement between concessionaires of both Parties. If concessionaires of both Parties fail to reach agreement between themselves as to the designation of the operator within three months after such concessionaires have been authorized, the Parties shall hold consultations concerning the designation of the operator. If the operator is not designated within two months after such consultations have started, concessionaires of both Parties shall determine the operator by lot-drawing.

2 操業管理者は、事業契約に基づくすべての操業の唯一の管理者であり、操業に必要なすべての人員を雇用し、操業に関連して要するすべての費用を支払い及び操業に必要なすべての資産（装置、資材及び需品を含む）を調達する。

第七条

一方の締約国の開発権者は、他方の締約国の法令に従い、共同開発区域における天然資源の探査又は採掘に必要な建物、プラットフォーム、貯蔵庫、パイプライン、終点施設その他の施設を、当該他方の締約国の領域内で取得し、建設し、維持し、使用し又は処分することができる。

第八条

一方の締約国の開発権者は、他方の締約国の開発権者が当該他方の締約国の法令に基づく義務を履行する場合において、その義務がこの協定に適合するものである限り、その履行を妨げてはならない。

第九条

- 1 両締約国の開発権者は、それぞれ、共同開発区域において採取される天然資源につき等分の分配を受ける権利を有する。
- 2 1の天然資源の探査及び採掘のために要すると合理的に認められる費用は、両締約国の開発権者の間で等しい割合で分担される。

2. The operator shall have exclusive control of all operations under the operating agreement and employ all personnel required for such operations, pay and discharge all expenses incurred in connection with such operations, and obtain all assets, including equipment, materials and supplies, necessary for carrying out such operations.

Article VII

A concessionaire of one Party may acquire, construct, maintain, use and dispose of, in the territory of the other Party, buildings, platforms, tanks, pipelines, terminals and other facilities necessary for exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone in accordance with the laws and regulations of that other Party.

Article VIII

A concessionaire of one Party shall not interfere with the discharging by a concessionaire of the other Party of its obligations under the laws and regulations of that other Party, insofar as such obligations are consistent with the provisions of this Agreement.

Article IX

1. Concessionaires of both Parties shall be respectively entitled to an equal share of natural resources extracted in the Joint Development Zone.
2. Expenses reasonably attributable to exploration and exploitation of such natural resources shall be shared in equal proportions between concessionaires of both Parties.

共同開発区域における施設の取得、建設等

国内法令上の義務の履行

天然資源の分配に要する費用の分担

第十条

- 1 この協定に基づく開発権者の権利は、探査権及び探掘権とする。
- 2 探査権の存続期間は、4 (3) の規定が適用される場合を除くほか、事業契約の効力発生の日から八年とする。
- 3 探掘権の存続期間は、探掘権の設定の日から三十年とする。両締約国の開発権者は、それぞれ自国に対し、更に五年間の期間の延長を申請することができる。この延長の申請は、必要に応じ、何回でも行うことができる。両締約国は、その申請があつたときは、その申請を承認するかどうかを決定するため相互に協議する。
- 4 (1) 探査権の存続期間中に天然資源の商業的発見があつたときは、両締約国の開発権者は、それぞれ自国に対し、探掘権の設定を申請することができる。両締約国は、その申請があつたときは、速やかに協議し、その申請を遅滞なく承認する。
- (2) 両締約国が商業的発見があつたと認めるときは、各締約国は、自国の関係開発権者に対し、探掘権の設定の申請を行うよう要請することができる。当該開発権者は、その要請を受けた後三箇月以内に探掘権の設定の申請を行わなければならない。
- (3) 探査権の存続期間中に探掘権が設定されたときは、探査権の存続期間は、探掘権の設定の日に満了する。
- 一方の締約国の開発権者に変更があつたときは、新たな開発権者の探査権又は探掘権の存続期間は、当初の開発権者の

Article X

1. The right of concessionaires under this Agreement shall be exploration right and exploitation right.
2. The duration of exploration right shall be eight years from the date of entry into force of the operating agreement, subject to the provisions of paragraph 4 (3) of this Article.
3. The duration of exploitation right shall be thirty years from the date of the establishment of such right. Concessionaires of both Parties may apply to the respective Parties for an extension of an additional period of five years. Such application may be made as many times as necessary. The Parties shall, upon receipt of such application, consult with each other to decide whether to approve such application.
4. (1) When commercial discovery of natural resources is made during the period of exploration right, concessionaires of both Parties may apply to the respective Parties for the establishment of exploitation right. When the Parties receive such application, they shall promptly hold consultations and shall without delay approve such application.
- (2) When the Parties recognize that commercial discovery is made, each Party may request its concessionaire concerned to present an application for the establishment of exploitation right. Such concessionaire shall present such application within three months after receiving the request.
- (3) If exploitation right is established during the period of exploration right, the period of exploration right shall expire on the date of the establishment of exploitation right.
5. In case of any change in concessionaire

探査権又は採掘権の存続期間の満了の日に満了する。

- 6 開発権者の探査権又は採掘権は、その開発権者を認可した締約国の承認及び同一の小区域について認可された他方の開発権者の同意を得て、当該小区域の全体について移転することができ。ただし、この協定及び事業契約に基づくその開発権者の権利及び義務が、全体として移転されることを条件とする。

第十一條

- 1 両締約国の開発権者は、両締約国の間で行われる別個の取極に従い、探査権の存続期間中に一定の数の坑井を掘さくすることを要する。この場合において、各小区域において掘さくすべきものとされる坑井の最低数は、事業契約の効力発生の日から最初の三年の期間、次の三年の期間及び残余の二年の期間について、それぞれ二を超えないものとする。両締約国は、各小区域において掘さくすべきものとされる坑井の最低数を合意するに当たっては、当該小区域の水深及び大きさを考慮に入れるものとする。

- 2 両締約国の開発権者が1に規定する期間のいずれかにおいて所定の数を超えて坑井を掘さくした場合には、超過して掘さくされた坑井は、当該期間に続く一又は二の期間において掘さくされたものとみなす。

of one Party, the period of exploration right or exploitation right of a new concessionaire shall expire on the date of expiration of the period of exploration right or exploitation right of the original concessionaire.

6. Exploration right or exploitation right of a concessionaire may be transferred in its entirety subject to the approval of the Party that has authorized it and to the consent of the other concessionaire authorized with respect to the same subzone, provided that the rights and obligations of that concessionaire under this Agreement and the operating agreement are transferred in whole.

Article XI

1. Concessionaires of both Parties shall be required to drill a certain number of wells during the period of exploration right in accordance with a separate arrangement to be made between the Parties. However, the minimum number of wells to be drilled in each subzone shall not exceed two respectively for the first three-year period, the following three-year period and the remaining two-year period, from the date of entry into force of the operating agreement. The Parties shall, when agreeing upon the minimum number of wells to be drilled in each subzone, take into account the depths of the superjacent waters and the size of each subzone.

2. If concessionaires of both Parties have drilled wells in excess of the requirements during any of the periods referred to in paragraph 1 of this Article, such excess wells shall be regarded as having been drilled in the succeeding period or periods.

第十二条

両締約国の開発権者は、探査権又は採掘権の設定の日から六箇月以内に操業に着手しなければならない。かつ、引き続き六箇月以上操業を停止してはならない。

第十三条

- 1 2の規定に従うことを条件として、両締約国の開発権者は、事業契約の効力発生の日から起算して、三年以内に当初の当該小区域の二十五パーセント、六年以内に当初の当該小区域の五十パーセント、八年以内に当初の当該小区域の七十五パーセントを放棄しなければならない。
- 2 放棄される区域の大きさ、形状及び位置並びに放棄の時期は、両締約国の開発権者の間の合意によつて決定される。ただし、3の規定が適用される場合を除くほか、七十五平方キロメートルよりも小さい区域に分割して放棄してはならない。
- 3 (1) 両締約国の開発権者が1の規定に従つて放棄すべき区域について合意することができない場合には、両締約国の開発権者は、当該放棄期間の満了の日に、共通して放棄が提案されている区域に加えて、それぞれ放棄が提案されている区域の五十パーセントずつを、放棄される区域が全体として可能な限り単一の区域となるように、放棄する。
- (2) 共通して放棄が提案されている区域がないときは、両締約国の開発権者は、それぞれ放棄が提案されている区域の五十パーセントずつを放棄する。

Article XII

Concessionaires of both Parties shall start operations within six months from the date of the establishment of exploration right or exploitation right and shall not suspend operations for more than six consecutive months.

Article XIII

1. Subject to the provisions of paragraph 2 of this Article, concessionaires of both Parties shall release twenty-five per cent of the original subzone concerned within three years, fifty per cent of such subzone within six years, and seventy-five per cent of such subzone within eight years, from the date of entry into force of the operating agreement.

2. The size, shape and location of the area to be released and the time of release shall be determined by agreement between concessionaires of both Parties. However, no single area smaller than seventy-five square kilometres shall be released except under paragraph 3 of this Article.

3. (1) If concessionaires of both Parties are unable to agree on the area to be released under paragraph 1 of this Article, concessionaires of both Parties shall release, on the date of the expiration of the release period concerned, the area mutually proposed for release and fifty per cent of the areas respectively proposed for release in such a way that the total area to be released will be a single area whenever possible.

(2) If there is no area mutually proposed for release, concessionaires of both Parties shall release fifty per cent of the areas respectively proposed for release.

- 4 両締約国の開発権者は、2の規定に従うことを条件として、いかなる区域をも任意に放棄することができる。
- 5 2の規定にかかわらず、一の開発権者は、事業契約の効力発生の日から二年が経過した後は、単独で当該小区域を全体として放棄することができる。

第十四条

- 1 いずれの一方の締約国も、自国の開発権者がこの協定又は事業契約に基づく義務を履行しない場合には、他方の締約国と協議した後、自国の法令に定める開発権者の保護に関する手続により、その開発権者の探査権又は採掘権を取り消すことができる。
- 2 いずれか一方の締約国が自国の法令に従つて自国の開発権者の探査権又は採掘権を取り消そうとする場合には、当該一方の締約国は、1の規定が適用される場合を除くほか、遅くとも取消しの十五日前までに他方の締約国にその意図を通知する。
- 3 一方の締約国による探査権又は採掘権の取消しは、遅滞なく他方の締約国に通知されるものとする。

第十五条

- 1 一方の締約国の開発権者が第十三条5の規定に基づいて小区域を単独で放棄した場合、一方の締約国の開発権者の探査権若しくは採掘権が前条の規定に基づいて取り消された場合

4. Concessionaires of both parties may release voluntarily any area subject to the provisions of paragraph 2 of this Article.

5. Notwithstanding the provisions of paragraph 2 of this Article, a concessionaire may unilaterally release the total subzone concerned after two years have elapsed from the date of entry into force of the operating agreement.

Article XIV

1. Either Party may, by pertinent procedures laid down in its laws and regulations concerning the protection of concessionaires, cancel exploration right or exploitation right of its concessionaire after consultations with the other party if such concessionaire fails to discharge any of its obligations under this Agreement or the operating agreement.

2. When either Party intends to cancel in accordance with its laws and regulations exploration right or exploitation right of its concessionaire, that party shall notify the other party of its intention at least fifteen days prior to such cancellation, except under paragraph 1 of this Article.

3. The cancellation of exploration right or exploitation right by one Party shall be notified to the other Party without delay.

Article XV

1. When a concessionaire of one Party has unilaterally released a subzone under paragraph 5 of Article XIII, when exploration right or exploitation right of a concessionaire of one Party has been cancelled under Article XIV or when a concessionaire of one Party has ceased

開発権者の
権利の消滅

残存開発
権者の権利
及び義務

又は一方の締約国の開発権者が存在しなくなつた場合（これらの開発権者を以下「前の開発権者」という。）には、残存する開発権者は、当該小区域において、前の開発権者を認可した締約国が新たな開発権者を認可するまでの間、その残存する開発権者と前の開発権者とは当事者であつた事業契約の単独危険負担条項の規定及び他の関連する諸規定に従つて、天然資源の探査又は採掘を行うことができる。ただし、前の開発権者を認可した締約国の承認を得ることを条件とする。

2 1の規定の適用上、残存する開発権者は、自己の開発権者としての地位を保持しつつ、開発権者の権利及び義務に関し、前の開発権者を認可した締約国の開発権者とみなされる。ただし、1の規定に基づく天然資源の探査又は採掘から生ずる所得につき残存する開発権者に対して行われる課税については、この限りでない。

3 新たな開発権者が一方の締約国によつて認可されたときは、その新たな開発権者と残存する開発権者は、新たな事業契約が効力を生ずるまでの間、その残存する開発権者と前の開発権者とは当事者であつた事業契約に拘束される。もつとも、1の規定に基づき天然資源の探査又は採掘を開始した残存する開発権者は、その残存する開発権者と前の開発権者とは当事者であつた事業契約の単独危険負担条項の規定に従つて、新たな事業契約が効力を生ずるまでの間、その探査又は採掘を継続することができる。

to exist (any such concessionaire hereinafter referred to as "the former concessionaire"), the remaining concessionaire in the subzone concerned may, until such time as the Party that has authorized the former concessionaire authorizes a new concessionaire, carry out exploration or exploitation of natural resources under the terms of the sole risk operation clauses and under other relevant provisions of the operating agreement to which such remaining concessionaire and the former concessionaire were parties, subject to the approval of the Party that has authorized the former concessionaire.

2. For the purposes of paragraph 1 of this Article, the remaining concessionaire shall be regarded as a concessionaire of the Party that has authorized the former concessionaire in respect of rights and obligations of a concessionaire, while retaining its own concessionaireship. The provisions of the above sentence shall not apply to taxation upon the remaining concessionaire with respect to its income derived from exploration or exploitation of natural resources under paragraph 1 of this Article.

3. When a new concessionaire is authorized by one Party, the new concessionaire and the remaining concessionaire shall be bound by the operating agreement and the remaining concessionaire were parties until such time as a new operating agreement enters into force. The remaining concessionaire who has started exploration or exploitation of natural resources under paragraph 1 of this Article may continue such exploration or exploitation under the terms of the sole risk operation clauses of the operating agreement to which such remaining concessionaire and the former concessionaire were parties until such time as the new operating agreement referred to above enters into force.

第十六条

共同開発区域において採取される天然資源に対する各締約国の法令の適用上、その天然資源のうち第九条の規定に基づき一方の締約国の開発権者が権利を有する部分は、当該一方の締約国が主権の権利を有する大陸棚^{だなん}において採取された天然資源とみなす。

第十七条

1 いずれの一方の締約国（地方公共団体を含む。）も、他方の締約国の開発権者に対し、

- (a) 共同開発区域における探査活動若しくは採掘活動
- (b) (a)に規定する活動から生ずる所得
- (c) (a)に規定する活動を行うために必要な固定資産の共同開発区域における所有又は
- (d) その者が認可を受けた小区域

について、租税その他の課徴金を課してはならない。

2 各締約国（地方公共団体を含む。）は、自国の開発権者に対し、

- (a) 共同開発区域における探査活動又は採掘活動
- (b) (a)に規定する活動を行うために必要な固定資産の共同開発区域における所有及び
- (c) その者が認可を受けた小区域

について、租税その他の課徴金を課することができる。

Article XVI

In the application of the laws and regulations of each Party to natural resources extracted in the Joint Development Zone, the share of such natural resources to which concessionaires of one Party are entitled under Article IX shall be regarded as natural resources extracted in the continental shelf over which that Party has sovereign rights.

Article XVII

1. Neither Party (including local authorities) shall impose taxes or other charges upon concessionaires of the other Party with respect to:

- (a) exploration or exploitation activities in the Joint Development Zone;
- (b) income derived from such activities;
- (c) the possession of fixed assets in the Joint Development Zone necessary for carrying out such activities; or
- (d) the subzones with respect to which such concessionaires are authorized.

2. Each Party (including local authorities) may impose taxes and other charges upon its concessionaires with respect to:

- (a) exploration or exploitation activities in the Joint Development Zone;
- (b) the possession of fixed assets in the Joint Development Zone necessary for carrying out such activities; and
- (c) the subzones with respect to which such concessionaires are authorized.

第十八条

- 各締約国の関税、輸入及び輸出に関する法令の適用上、
- (1) 共同開発区域において天然資源を探索し若しくは採掘するために必要な装置、資材その他の物品（以下「装置」という。）の共同開発区域への搬入、装置の共同開発区域におけるその後の使用又は装置の共同開発区域からの搬出は、輸入又は輸出とみなされない。
 - (2) 一方の締約国の管轄の下にある区域から共同開発区域への装置の搬出は、当該一方の締約国において輸入又は輸出とみなされない。
 - (3) いずれの一方の締約国も、その管轄の下にある区域から共同開発区域に搬入された装置を共同開発区域内で使用する者に対し、その装置の使用についての報告を提出するよう要求することができる。
 - (4) (1)の規定にかかわらず、(3)に規定する装置の共同開発区域から当該一方の締約国の管轄の下にある区域以外の区域への搬出は、当該一方の締約国において輸出とみなされる。

第十九条

この協定に別段の定めがある場合を除くほか、一方の締約国の法令は、当該一方の締約国が認可した開発権者が操業管理者として指定され及び行動する小区域において、天然資源の探索又は採掘に関連する事項について適用される。

Article XVIII

In the application of the laws and regulations of each Party on customs duties, imports and exports:

- (1) the introduction of equipment, materials and other goods necessary for exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone (hereinafter referred to as "equipment") into the Joint Development Zone, the subsequent use of equipment therein or the shipment of equipment therefrom shall not be regarded as imports or exports;
- (2) the shipment of equipment from areas under the jurisdiction of one Party to the Joint Development Zone shall not be regarded as imports or exports by that Party;
- (3) the users of equipment in the Joint Development Zone which has been introduced into the Joint Development Zone from areas under the jurisdiction of either Party may be required to submit reports to that Party on the use of such equipment;
- (4) notwithstanding the provisions of (1) of this Article, the shipment of the equipment referred to in (3) of this Article from the Joint Development Zone to areas other than those under the jurisdiction of that Party shall be regarded as exports by that Party.

Article XIX

Except where otherwise provided in this Agreement, the laws and regulations of one Party shall apply with respect to matters relating to exploration or exploitation of natural resources in the subzones with respect to which that Party has authorized concessionaires designated and acting as operators.

第二十条

両締約国は、共同開発区域における天然資源の探査又は採掘に関連する活動から生ずる海洋における衝突の防止並びにそれらの活動から生ずる海洋の汚染の防止及び除去のためにとるべき措置について合意する。

第二十一条

損害賠償

1 いずれか一方の締約国の国民又はいずれか一方の締約国の領域内に居住する他の者が共同開発区域における天然資源の探査又は採掘によつて生ずる損害を受けた場合には、当該国民又は当該他の者は、その損害の賠償請求の訴えを、(a) その損害が発生した領域が属する一方の締約国の裁判所、(b) 当該国民若しくは当該他の者が居住している一方の締約国の裁判所又は(ロ) その損害の原因となつた事故が発生した小区域において操業管理者として指定され及び行動している開発権者を認可した一方の締約国の裁判所のいずれかに提起することができる。

2 1の規定に基づき1に規定する損害の賠償請求の訴えの提起を受けた一方の締約国の裁判所は、当該一方の締約国の法令を適用する。

3 (1) 1に規定する損害が海底及びその下の掘さく又は坑水若しくは廢水の放流によつて生じた場合には、次に掲げる者は、2の規定に基づいて適用される法令に従ひ、連帯してその損害の賠償の責任を負う。

The Parties shall agree on measures to be taken to prevent collisions at sea and to prevent and remove pollution of the sea resulting from activities relating to exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone.

Article XX

Article XXI

1. When damage resulting from exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone has been sustained by nationals of either Party or other persons who are resident in the territory of either Party, actions for compensation for such damage may be brought by such nationals or persons in the court of one Party (a) in the territory of which such damage has occurred, (b) in the territory of which such nationals or persons are resident or (c) which has authorized the concessionaire designated and acting as the operator in the subzone where the incident causing such damage has occurred.

2. The court of one Party in which actions for compensation for such damage have been brought under paragraph 1 of this Article shall apply the laws and regulations of that Party.

3. (1) When damage referred to in paragraph 1 of this Article has been caused by digging operations of seabed and subsoil, or discharging of mine water or used water:

(a) concessionaires of both Parties who have exploration right or exploitation right with respect to the subzone concerned at the time of occurrence of such damage,

第二十二条

- 1 各締約国は、共同開発区域における天然資源の探査又は探掘のための固定施設上の無線局に周波数を割り当てるときは、その割当ての前に、できる限り速やかに、周波数、電波発射の型式、空中線電力、無線局の位置その他必要な事項を他方の締約国に通報する。各締約国は、これらの事項のその後の変更についても、同様に他方の締約国に通報する。
 - 2 両締約国は、いずれか一方の締約国の要請があつたときは、これらの事項に関して必要な調整を行うために協議する。
- (a) その損害の発生の時に当該小区域について探査権又は探掘権を有していた両締約国の開発権者
 - (b) その損害の発生の時に当該小区域について探査権又は探掘権を有する開発権者がいなかったときは、当該小区域について最も近い時期に探査権又は探掘権を有していた双方の開発権者
 - (c) その損害の発生の時に当該小区域について一の開発権者のみが探査権又は探掘権を有していたときは、その一の開発権者及び第十五条1に定義する前の開発権者
 - (2) 1の規定の適用上、(1)に規定する損害の発生の後に探査権又は探掘権の譲渡があつた場合には、探査権又は探掘権を譲渡した開発権者及び探査権又は探掘権を譲り受けた開発権者は、連帯して賠償の責任を負う。

(b) in case no concessionaire has exploration right or exploitation right with respect to the subzone concerned at the time of occurrence of such damage, the concessionaires who had exploration right or exploitation right most recently with respect to the subzone concerned or

(c) in case only one concessionaire has exploration right or exploitation right with respect to the subzone concerned at the time of occurrence of such damage, such concessionaire and the former concessionaire as defined in paragraph 1 of Article XV, shall be jointly and severally liable for the compensation for such damage in accordance with the laws and regulations applicable under paragraph 2 of this Article.

(2) For the purposes of (1) of this paragraph, when exploration right or exploitation right has been transferred after the occurrence of the damage referred to in (1) of this paragraph, the concessionaire who has transferred exploration right or exploitation right and the concessionaire who has obtained exploration right or exploitation right by such transfer shall be jointly and severally liable for the compensation.

Article XXII

1. Each Party shall, when assigning a frequency or frequencies to a radio station on a fixed installation for exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone, inform as soon as possible prior to such assignment the other Party of such frequency or frequencies, class of emission, antenna power, location of the station and other particulars deemed necessary. Each Party shall likewise inform the other Party of any subsequent changes in the above particulars.

2. The Parties shall hold consultations at the request of either Party for necessary coordination concerning the above particulars.

第二十三条

単一地質
構造の採

- 1 天然資源の単一の地質構造が第二条1に規定する線にまたがって存在し、かつ、当該地質構造のうちその線の一方の側に存在する部分の全体又は一部をその線の他方の側から採掘することができる場合には、締約国により当該地質構造を採掘することを認可された開発権者及び他の者（以下「開発権者及び他の者」という。）は、協議により、当該地質構造の最も効果的な採掘方法について合意に達するよう努力する。
- 2 (1) 開発権者及び他の者が1に規定する方法について協議を開始した後六箇月以内に合意に達することができなかった場合には、両締約国は、協議により、合理的な期間内にその方法に関する共同提案を開発権者及び他の者に対して行うよう努力する。
- (2) すべての又は一部の開発権者及び他の者の間で1に規定する方法について合意に達した場合には、その合意（その修正を含む。）は、両締約国の承認を得たときに効力を生ずる。その合意においては、3の規定に基づく天然資源の分配及び費用の分担に関する詳細について定める。
- 3 (2)に規定する合意に基づく採掘の場合には、当該地質構造から採取される天然資源及びその天然資源の採掘のために要すると合理的に認められる費用は、当該地質構造のうち開発権者及び他の者が締約国から認可を受けたそれぞれの区域に存在する部分の生産可能な埋蔵量に比例して、開発権者及び他の者の間で配分される。
- 4 1から3までの規定は、共同開発区域内の小区域を囲む線

Article XXIII

1. If any single geological structure or field of natural resources extends across any of the lines specified in paragraph 1 of Article II and the part of such structure or field which is situated on one side of such lines is exploitable, wholly or in part, from the other side of such lines, concessionaires and other persons authorized by either party to exploit such structure or field (hereinafter referred to as "concessionaires and other persons") shall, through consultations, seek to reach agreement as to the most effective method of exploiting such structure or field.

2. (1) If concessionaires and other persons fail to reach agreement as to the method referred to in paragraph 1 of this Article within six months after such consultations have started, the Parties shall, through consultations, endeavour to make a joint proposal concerning such method to concessionaires and other persons within a reasonable period of time.

(2) When agreement concerning such method is reached among all or some of concessionaires and other persons, the agreement (including modifications thereof) shall enter into force upon approval by the Parties. Such agreement shall provide for details relating to the sharing, in accordance with paragraph 3 of this Article, of natural resources and expenses.

3. In cases of exploitation under the agreement referred to in paragraph 2 (2) of this Article, natural resources extracted from such structure or field and expenses reasonably attributable to exploitation of such natural resources shall be shared among concessionaires and other persons in proportion to the quantities of producible reserves in the respective

にまたがつて存在する天然資源の単一の地質構造の採掘について準用する。

5

(1) 第十六条の規定の適用上、共同開発区域において採取される天然資源のうち、一方の締約国によつて認可された者（開発権者を除く。）が3の規定及び2(2)に規定する合意に基づいて権利を有する部分は、当該一方の締約国の開発権者が権利を有する天然資源の部分とみなす。

(2) 第十七条の規定の適用上、一方の締約国によつて認可された者（開発権者を除く。）であつて2(2)に規定する合意の当事者であるものは、当該一方の締約国の開発権者とみなす。

(3) いずれの一方の締約国（地方公共団体を含む。）も、他方の締約国の開発権者に対し、

(a) 2(2)に規定する合意に従つて共同開発区域の外で行う採掘活動

(b) (a)に規定する活動から生ずる所得又は

(c) (a)に規定する活動を行うために必要な固定資産の所有について、租税その他の課徴金を課してはならない。

第二十四条

1 両締約国は、この協定の実施に関する事項について協議するための機関として、日韓共同委員会（以下「委員会」とい

parts of such structure or field which are situated in the area with respect to which they have been authorized by either Party.

4. The provisions of the foregoing paragraphs of this Article shall apply mutatis mutandis with respect to exploitation of a single geological structure or field of natural resources extending across lines bounding the subzones of the Joint Development Zone.

5. (1) For the purposes of Article XI, the share of natural resources extracted in the Joint Development Zone to which persons (other than concessionaires) authorized by one Party are entitled under paragraph 3 of this Article and the agreement referred to in paragraph 2 (2) of this Article shall be regarded as the share of natural resources to which concessionaires of that Party are entitled.

(2) For the purposes of Article XVII, persons (other than concessionaires) authorized by one Party who are parties to the agreement referred to in paragraph 2 (2) of this Article shall be regarded as concessionaires of that Party.

(3) Neither Party (including local authorities) shall impose taxes or other charges upon concessionaires of the other Party with respect to:

(a) exploitation activities carried out outside the Joint Development Zone in accordance with the agreement referred to in paragraph 2 (2) of this Article;

(b) income derived from such activities; or

(c) the possession of fixed assets necessary for carrying out such activities.

Article XXIV

1. The Parties shall establish and maintain the Japan-Republic of Korea Joint Commission (hereinafter referred to as "the Commission")

設置、運営等

- う。)を設置し及び維持する。
- 2 委員会は、二の国別委員部で構成し、各国別委員部は、それぞれ締約国が任命する二人の委員で構成する。
- 3 委員会のすべての決議、勧告その他の決定は、国別委員部の間の合意によつてのみ行ふものとする。
- 4 委員会は、その会議の手続規則を採択し、必要があるときは、これを修正することができる。
- 5 委員会は、毎年少なくとも一回会合し、また、いずれか一方の国別委員部の要請によつて会合する。
- 6 委員会は、その第一回会議において、議長及び副議長を異なる国別委員部から選定する。議長及び副議長の任期は、一年とする。国別委員部からの議長及び副議長の選定は、それぞれの締約国がそれらの地位に順番に代表されるように行う。委員会の下に、その事務を遂行するため常設の事務局を設置することができる。
- 8 委員会の公用語は、日本語、韓国語及び英語とする。提案及び資料は、いずれの公用語によつても提出することができる。
- 9 委員会が共同の経費が必要であると決定したときは、その共同の経費は、委員会が勧告し、かつ、両締約国が承認するところに従つて両締約国が負担する分担金により、委員会が支払う。

第二十五条

- 1 委員会は、次の任務を遂行する。
 - (a) この協定の運用について検討し並びに、必要と認めるときは、この協定の運用を改善するためにとるべき措置につ

- as a means for consultations on matters concerning the implementation of this Agreement.
2. The Commission shall be composed of two national sections, each consisting of two members appointed by the respective Parties.
3. All resolutions, recommendations and other decisions of the Commission shall be made only by agreement between the national sections.
4. The Commission may adopt and amend, when necessary, rules of procedure for its meetings.
5. The Commission shall meet at least once each year and whenever requested by either national section.
6. At its first meeting, the Commission shall select its Chairman and Vice-Chairman from different national sections. The Chairman and the Vice-Chairman shall hold office for a period of one year. Selection of the Chairman and the Vice-Chairman from the national sections shall be made in such a manner as will provide in turn each Party with representation in these offices.
7. A permanent secretariat may be established under the Commission to carry out the clerical work of the Commission.
8. The official languages of the Commission shall be Japanese, Korean and English. Proposals and data may be submitted in any official language.
9. In case the Commission decides that joint expenses are necessary, such expenses shall be paid by the Parties as recommended by the Commission and approved by the Parties.

Article XXV

1. The Commission shall perform the following functions:
 - (a) to review the operation of this

紛争の解決

- (b) 開発権者の技術上及び財務上の報告を受領すること。この報告は、両締約国が毎年提出するものとする。
- (c) 開発権者によつては解決することができない紛争を解決するためにとるべき措置について両締約国に勧告すること。
- (d) 操業管理者の操業及び共同開発区域における天然資源の探査又は採掘のための設備その他の施設を視察すること。
- (e) この協定の効力発生の際に予想されなかつた問題（両締約国の法令の適用に関連する問題を含む。）について研究し及び、必要と認めるときは、それらの問題を解決するための適当な措置について締約国に勧告すること。
- (f) 両締約国により公布された法令で共同開発区域における天然資源の探査又は採掘に関連するものに関し、両締約国からの通報を受領すること。
- (g) この協定の実施に関連するその他の事項について討議すること。
- 2 両締約国は、1の規定に基づいて委員会が行う勧告をできる限り尊重する。

第二十六条

- 1 この協定の解釈及び実施に関する両締約国間の紛争は、まず、外交上の経路を通じて解決するものとする。
- 2 1の規定によつて解決することができなかつた紛争は、いずれか一方の締約国が他方の締約国から紛争の仲裁を要請する公文を受領した日から三十日の期間内に各締約国が任命す

Agreement and, when necessary, deliberate on and recommend to the Parties measures to be taken to improve the operation of this Agreement;

(b) to receive technical and financial reports of concessionaires, which shall be submitted annually by the Parties;

(c) to recommend to the Parties measures to be taken to settle disputes incapable of solution by concessionaires;

(d) to observe operations of operators and installations and other facilities for exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone;

(e) to study problems, including those relating to the application of laws and regulations of the Parties, unexpected at the time of entry into force of this Agreement, and, when necessary, recommend to the Parties appropriate measures to solve such problems;

(f) to receive notices concerning the laws and regulations promulgated by the Parties relating to exploration or exploitation of natural resources in the Joint Development Zone, which shall be submitted by the Parties;

(g) to discuss any other matter relating to the implementation of this Agreement.

2. The Parties shall respect to the extent possible recommendations made by the Commission under paragraph 1 of this Article.

Article XXVI

1. Any dispute between the Parties concerning the interpretation and implementation of this Agreement shall be settled, first of all, through diplomatic channels.

2. Any dispute which fails to be settled under paragraph 1 of this Article shall be referred for decision to an arbitration board composed of three arbitrators, with each Party

る各一人の仲裁委員と、このようにして選定された二人の仲裁委員がその後の三十日の期間内に合意する第三の仲裁委員又はその二人の仲裁委員が当該期間内に合意する第三国の政府が任命する第三の仲裁委員との三人の仲裁委員から成る仲裁委員会に決定のため付託する。ただし、第三の仲裁委員はいずれの締約国の国民でもない者とする。

3 各締約国が任命した仲裁委員が2に規定するその後の三十日の期間内に第三の仲裁委員又は第三国について合意しなかつた場合には、両締約国は、国際司法裁判所長に対し、いずれの締約国の国民でもない第三の仲裁委員を任命するよう要請する。

4 いずれか一方の締約国の要請があつたときは、仲裁委員会は、緊急の場合には、裁定を行う前に暫定的な命令を発することが出来る。両締約国は、その命令を尊重する。

5 両締約国は、この条の規定に基づく仲裁委員会の裁定に服するものとする。

第二十七条

共同開発区域における天然資源の探査及び採掘は、共同開発区域及びその上部水域における航行、漁業等の他の正当な活動が不当に影響されることのないように行うものとする。

第二十八条

この協定のいかなる規定も、共同開発区域の全部若しくは一部に対する主権的権利の問題を決定し又は大陸棚の境界画定に関する各締約国の立場を害するものとみなしてはならない。

協定と共同
開発区域

共同開発
区域及び
その上部
水域にお
ける航行
、漁業等
への影響

appointing one arbitrator within a period of thirty days from the date of receipt by either Party from the other Party of a note requesting arbitration of the dispute, and the third arbitrator to be agreed upon by the two arbitrators so chosen within a further period of thirty days or the third arbitrator to be appointed by the government of a third country agreed upon within such further period by the two arbitrators, provided that the third arbitrator shall not be a national of either party.

3. If the third arbitrator or the third country is not agreed upon between the arbitrators appointed by each Party within a period referred to in paragraph 2 of this Article, the Parties shall request the President of the International Court of Justice to appoint the third arbitrator who shall not be a national of either Party.

4. At the request of either Party, the arbitration board may in urgent cases issue a provisional order, which shall be respected by the Parties, before an award is made.

5. The Parties shall abide by any award made by the arbitration board under this Article.

Article XXVII

Exploration and exploitation of natural resources in the Joint Development Zone shall be carried out in such a manner that other legitimate activities in the Joint Development Zone and its superjacent waters such as navigation and fisheries will not be unduly affected.

Article XXVIII

Nothing in this Agreement shall be regarded as determining the question of sovereign rights over all or any portion of the Joint Development Zone or as prejudicing the positions of the respective Parties with respect

第二十九条

両締約国は、いずれか一方の締約国の要請があつたときは、この協定の実施について協議を行う。

第三十条

両締約国は、この協定を実施するため、すべての必要な国内的措置をとる。

第三十一条

1 この協定は、批准されなければならない。批准書は、できる限り速やかに東京で交換されるものとする。この協定は、批准書の交換の日から効力を生ずる。

2 この協定は、五十年間効力を有するものとし、その後は、3の規定に従つて終了する時まで効力を存続する。

3 いずれの一方の締約国も、三年前に他方の締約国に対して書面による予告を与えることにより、最初の五十年の期間の終わりに又はその後いつでもこの協定を終了させることができる。

to the delimitation of the continental shelf.

Article XXIX

Upon the request of either Party, the Parties shall hold consultations regarding the implementation of this Agreement.

Article XXX

The Parties shall take all necessary internal measures to implement this Agreement.

Article XXXI

1. This Agreement shall be ratified. The instruments of ratification shall be exchanged at Tokyo as soon as possible. This Agreement shall enter into force as from the date on which such instruments of ratification are exchanged.

2. This Agreement shall remain in force for a period of fifty years and shall continue in force thereafter until terminated in accordance with paragraph 3 of this Article.

3. Either Party may, by giving three years' written notice to the other Party, terminate this Agreement at the end of the initial fifty-year period or at any time thereafter.

4. 2の規定にかかわらず、いずれか一方の締約国が、共同開発区域において天然資源を採掘することが経済上の見地からもはや不可能であると認める場合には、両締約国は、この協定を改正するか又は終了させるかどうかについて協議する。この協定の改正又は終了について合意に達しないときは、この協定は、2に定める期間中効力を存続する。

以上の証拠として、下名は、各自の政府から正当に委任を受けて、この協定に署名した。

千九百七十四年一月三十日にソウルで、英語により本書二通を作成した。

日本国のために

後宮虎郎

大韓民国のために

金東祚

4. Notwithstanding the provisions of paragraph 2 of this Article, when either Party recognizes that natural resources are no longer economically exploitable in the Joint Development Zone, the Parties shall consult with each other whether to revise or terminate this Agreement. If no agreement is reached as to the revision or termination of this Agreement, this Agreement shall remain in force during the period as provided for in paragraph 2 of this Article.

IN WITNESS WHEREOF, the undersigned, being duly authorized by their respective Governments, have signed this Agreement.

DONE in duplicate at Seoul in the English language, this thirtieth day of January of the year one thousand nine hundred and seventy-four.

For Japan

Torao Ushiroku

For the Republic of Korea

Dong-jo Kim